

日本山岳会 越後支部報

第 38 号

令和5年10月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 後藤 正弘

新潟県上越市新光町2丁目1-40

TEL・FAX 025-512-7561

広報委員長 諏訪 恵一



私の一枚

焼山山頂からの金山

火打山から焼山に登頂。一度登ってみたいと思っていたので感慨深いものがありました。お天気に恵まれ、大好きな山の一つである「天狗原山」から「金山」の稜線を間近でじっくりと堪能する事も出来ました。遠くに後立山連峰が連なり、剣岳も見ることが出来ました。

噴き出す水蒸気音が大きく、ジェット機の音のようでハラハラしながらの山頂でした。

撮影者 井口 礼子

古道・峠に親しむ！

越後山岳古道プロジェクトチーム サブリーダー 佐久間 雅義

私が峠を意識したのは、山の先輩に昔連れて行かれた諏訪峠ではなく、一人で歩いた会津の奥山明神ガ岳（1074m）でした。それは令和元年の5月下旬でした。大岩登山口に車を置き風薫る道を狭間峠へ歩き始めました。峠道には会津三十三観音の第二十七番札所があり、登山道とは違い幅広の道で大八車が通れる事が印象に残りました。山頂はぶなの二次林で覆われていて眺望は望めませんが、木立を渡る涼しい風を楽しめました。尤も会津の山は熊が付き物ですのでそれなりに用心が必要で

す。帰宅後調べてみると狭間峠は旧西山村と旧会津高田町（現会津美里町）の間にあり、途中に木地師の多く住む旧九々明集落がありましたから、木工は盛んだと思われ

ます。山屋はいつも山頂を目指して頑張りますが、峠歩きには違う楽しみが待っています。

1. 有名な古道・峠以外は専門のガイドブックは少く、情報を集めるのが楽しみです。又事前準備が欠かせません。ベストは昔の地図ですがこれが入手困難です。地図が古すぎても歩けないし、新しいと昔地図にあった峠の記載がありません。

2. アプローチ調査が欠かせません。モーターゼーションに伴い、古道も寸断されています。まず峠の入り口が明示されていないケースが殆どです。地図上で決めた点を、GPSへ落として現地に行きます。現地です。実際にそのポイントを設定・記録します。時間があれば少しヤブの状況を調査します。

これで峠の入口・出口と車の置き場も見当をつけます。

3. 日帰り可能と踏んだら、概略の時間を標高差とヤブ状況から判断して大雑把な計画を立てます。峠歩きはできれば通して歩きたいので、下山口に車のデポが必要ですから、2名と2台の車が不可欠です。最後に途中で道が消える可能性もあるので、地図上の必要ポイントにGPSを入れ込みます。事前調査をやっていると段々実現可能性が高まってくるのも一つの楽しみです。

4. 本番は、余裕を持ったために早目に出ます。実際に踏み込むと道が消えるケースが多々あります。事前のポイントは結構外れます。それだけヤブが厳しい事が理由です。あとは地形を読んだりしてなんとか軌跡を採って行きます。途中断念しても帰路の確保は不可欠です。山の場合は尾根筋を間違わなければ高みを目指しますが、峠歩きは鞍部を目指します。数回踏査をやっていると、峠道の道方（道の形）はヤブの中でもうっすら分かるようになってきます。要は「習うより慣れる」です。

5. 報告。峠歩きには普通の登山道ではない歴史、来歴、遺構等の生活の跡が刻み込まれています。主には生活道ですが、お遍路道、軍道、戦場、修験道等調べ始めるとさきがありません。それも又楽しみです。自分の街の近くに興味の引く峠なり古道がありましたら、一度足を運んだら如何でしょうか？

未知の好奇心を刺激してくれること請け合いです。

桐生恒治前支部長が 日本山岳会副会長に

当支部前支部長の桐生恒治さんが令和5年度日本山岳会通常総会において、副会長に就任されました。おめでとうございます。

今後のご活躍を祈念するとともに、就任にあたっての抱負をお伺いしました。

日本山岳会副会長に就任して

桐生 恒治



6月24日東京で令和5年度日本山岳会通常総会が開催され、今後

2年間の会務運営を担当する理事に選出されました。総会終了後の緊急理事会で、橋本しをりさんが第27代会長に選出され初の女性会長となりましたが、私は副会長に指名されて支部事業委員会・自然保護委員会・海外登山委員会などを担当することになりました。

2月末に本部関係者から次期理事をお願いしたいとの打診があり、3月4日に越後支部役員会があり本部から理事要請があったと報告相談したところ、「越後支部にとっても非常に名誉なことであり、日本山岳会全体のためにも頑張っって欲しい。」と激励を受けて受諾しました。

若き頃日本山岳会学生部で活動を始め3回の海外登山に参加、1985年に越後支部編入、その後、事務局長・副支部長・支部長を務め、5月27日支部総会で支部長を退任したところでした。

今迄の越後支部での経験を生かして、本

部・支部の活動を盛り上げて会務に精励したいと思えます。

高頭祭について

小山 一夫

例年より、早い梅雨明けの中第66回高頭祭を開催しました。昨年まではコロナの影響で、規模を縮小して開催されましたが、本年は制限なしで開催しました。

自然保護委員会を中心に朝より恒例の清掃活動が行われました。昨年は「高頭寿像碑」の修復記念で古野淳会長、神崎忠男氏をはじめ全国から多数の方から参加いただき盛大な修復記念行事でしたが、本年は支部会員を中心に開催しました。玉木大二朗事務局長の開会宣言に続き。来賓の紹介があり、坂井広志日本山岳会前副会長、稲田春男新潟県山岳協会会長、藤井美恵子深沢小学校校長が紹介されました。後藤正弘支部長の挨拶に続き昨年より始まった献花が行われ、お酒好きだった高頭仁兵衛翁のレリーフに女性陣より献

酒が行われました。記念写真後に坂井広志前副会長より「日本山岳会120周年事業、引き継がれる山岳祭プロジェクト」と題して、



後藤正弘支部長挨拶

上高地ウエストン祭はじめ宮崎ウエストン祭まで、各地の山岳祭が紹介されました。終了後、御神廟で開催される「新潟県登山祭」に参加するために弥彦山山頂に向かいました。支部会員で前新潟県山岳協会副会長、遠藤俊一氏より「日本300名山あれこれ」の講演があり、夕日の沈む日本海を見ながら松明登山が開始されました。コロナ以後初めて開催された「弥彦灯籠祭」のポスターとうちわは、松明登山の行進の写真でした。沿道の皆さんから拍手で迎えられる伝統の行事です。この時期に咲く「オオナンギセル」が、この数年見えず絶滅したと思っていました。大平園地より多宝山にかけて多くのオオナンギセルがありました。外来植物のフランスギクの発生で絶滅したと思っていました。地道な登山道整備で復活したいと思います。

高頭仁兵衛翁を始め多くの新潟の岳人が



燈籠まつりポスター

愛した「弥彦山」を守る活動の重要性を知りました。

弥彦山フランスギク 駆除活動報告

自然保護委員会 春日 良樹

実施日時…令和5年6月3日(土)

9時30分～12時30分

実施場所…佐渡・弥彦・米山国定公園

フランスギクの駆除活動は、昨年度から開始し今年で2回目となります。今回は、弥彦村の皆様や近隣市の方々にも郷土の秀峰弥彦山に繁茂する外来種の現状を知っていただきたく、村役場の協力を得て各戸に案内チラシを配布。村内と周辺市の皆様10名、さらに長岡技術科学大学山岳部、当山





117kgの収穫

岳会員を合わせ計32名参加の駆除活動となりました。

村役場担当者の挨拶に続き、後藤正弘支部長が参加者に対し謝意を伝えた後、NPO法人エコロジーネットワーク理事長の片岡廣夫氏から外来種駆除の留意点の説明を受け、「根こそぎ取る」ことを確認し作業に入りました。1班は弥彦山頂（奥の院）、2班は大平園地と2か所に分かれて抜き取り作業を実施。いずれもヨーロッパ原産のフランスギクが繁茂し日本離れた景觀を呈しています。そして、カワラナデシコやヤマユリなどの在来植物の生育が圧迫されています。2時間程の作業で117kgを駆除することができました。

一方で、一部の観光客からは、「きれいに咲いているのに何故抜き取るのか」といった批判の声も聞こえてきました。国定公園の意義（自然公園法）や外来生物法、種の多様性基本法の趣旨への理解を深め、当支部として、外来種の駆除目的を一層鮮明にして取り組む必要があるでしょう。フランスギクの生態や分布拡大の要因

を考えたとき、数年で結果が出せるものではないようです。啓発を含め根気強く継続する必要がありますと感じました。参加して下さった皆様、ご協力いただいた関係の皆様、誠に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました

弥彦山清掃活動の報告

自然保護委員会 春日 良樹

日時：7月25日（月）10時～12時

朝から真夏の快晴。下界では35℃を超す炎天のもと、総勢16名が集まりました。本活動は、当日午後に開催される高頭祭の準備の一環として毎年実施しているものです。2班に分かれ、弥彦山大平園地登山口から大平園地までと弥彦山山頂（奥の院）の清掃と草刈りを実施しました。

大平園地への登山道では、夏草が激しく繁茂し人ひとりがやっと通れるほどの道幅でしたが、草刈機の活躍と女性陣の手際よ

い草の片付けで1時間30分ほどで終了。また、弥彦山山頂ではマムシに気をつけながらの作業。12時無事終了しました。その後、大平園地で昼食。高頭祭までの間、日本海からの爽風の中、仲間と語らいながらゆったりと過ごしました。参加者の皆様ありがとうございました。

参加者が減少傾向にあるようです。来年は、さらに多くの皆様からの参加を期待しております。

地域の山（小千谷市）

蕨生城跡へののみち

和田 守

JR小千谷駅から越後交通長岡行きバスに乗り宮前バス停に下車、5分ほどで極楽寺登山口に着く。マイカーの場合は極楽寺近くに駐車場スペースがある。（15台ほど）

蕨生城跡は通称、蕨生城山（標高258メートル）と言い南北朝時代に活用されたもので当初、蕨生氏が居城したといわれる。

大永3年（1523年）に上杉氏の将、平子氏が居城したと伝えられ、その後、天正7年（1579年）上杉謙信没後の家督争い（御館の乱）の際、平子氏は上杉景虎方についたため、上杉景勝方に攻められ落城したとされ、一族は蘭木（小千谷市）に退隠した。また慶長4年（1599年）、会津に移った上杉家の求めに応じて越後に残った上杉家の遺民一揆の際に五智院の僧、海龍が遺民一揆の首領と立て籠もったと言われている。

登山道は中部北陸自然歩道として整備



蕨生城跡から山本山を望む

されていて、案内板の裏側から登り、やがて直登コース分岐を左方向に行きながら10分ほどで奥ノ院がある。ここは近郷近在の信心深い人々から「岩屋不動尊」として崇められ、小さな滝は夏でも枯れない冷水が流れ出ている。以前は汲みに来る人も多かった。送電線の鉄塔を右に見て階段状に付けられた道を登ると尾根伝いとなって緩い登りとなる。要所要所に自然歩道の案内標識があり、左側の木々の間から朝日山古戦場と金倉山を見ながら登ると、やがて城山山頂に着く。山頂には自然歩道の説明板とベンチがあり、眼下には信濃川の流れと小千谷の街を望み、遠くは弥彦山、角田山そして黒姫山、米山などの眺望が良い。城跡は十字形式の山城で、正面は西方に向かつて三国街道と反対側は野辺川道を見下ろし、また信濃川の舟運を見張る要所であったとされる。

山寺山へと続く遊歩道を上り下りしながら、ブナ林を過ぎ、やがて緩やかな尾根



歩きとなる。左右には崖もあり要所に柵や鎖が設置してあるが注意したい。30分ほどで山寺山(297m)に到着。春先は白く輝く黒姫山や米山をバックに眼下には小千谷の市街地と信濃川が一望出来る。この先は下り道をゆつくり歩いてゆく。途中に大きな桜の木と近くには道祖神が祭っており、満開の頃はカメラアングルには良い場所である。林道の下り道を歩きながら、やがて道の駅「ちぢみの里」に着く。山寺山への縦走と、またマイカー利用の場合は稗生城跡山頂までの往復といずれもお手頃の静かな歴史コースである。

◎稗生城跡から山寺山縦走コース

極楽寺駐車場→0.2km10分↓岩屋不動尊→0.5km10分↓中間案内標識→0.5km20分↓稗生城跡山頂
 稗生城跡→0.2km5分↓ブナ林→0.9km25分↓山寺山→1.5km40分↓道の駅ちぢみの里
 距離…3.8km 時間…約1時間50分

飯豊本山(2,105m)

渡辺 茂

日時:2023年7月2日(日)〜3日(月)
 ルート:弥平四郎集落〜秋川山荘〜松平峠〜三国小屋〜切合小屋〜上ノ越
 秋川駐車場〜弥平四郎集落
 参加者:7名

2023年度第2回山行委員会企画は飯豊本山とした。阿賀町で7名が合流し弥平四郎登山口に向かう。昨年の水害により今期の飯豊への通行可能な登山道は「弥平四郎」「川入」「大日杉」の3ルートである。今回は新潟からも近い弥平四郎集落か



切合小屋前で

ら入山することにした。秋川駐車場で荷物を整え出発したが、奥川に架けられていた木橋は大雨の影響で流されており靴を脱いで渡った。この新長坂尾根は私にとっては良く利用したルートであるが一部は崩れて登山道が傷んできているように感じた。このルート、以前は途中の沢で「水」がとれたが2つの沢はカラカラ状態では無し。以前の記憶では二つの沢を超えると松平峠は直ぐと思いきやもうすぐ峠は近いぞと声をかけた。峠で休憩、ここから疣岩山までは日影は無く陽を浴びながら黙々と進み、水場で休憩し冷たい「水」を汲み降み、冷水を確保し皆に一杯ずつ飲んでもらった。疣岩山手前でトップ二人が子熊発見か、「オー 熊だー」熊は登山道沿いに逃げた。ここ数年、熊を年2頭は見ているようだ。疣岩山を過ぎブナ林の日陰で昼食とした。

ここから一旦下りとなり、三国山への斜

面の上りに入るとヒメサユリ、ニッコウキスゲが咲き誇っていた。三国小屋から種蒔山までは暑い中の登高であったがハクサンチドリやミヤマキンバイ、ゴゼンタチバナと花々を楽しみながら皆が写真をバチバチ撮っていた。切合小屋16時着、早速、ビールで乾杯、今日の夕食は一品持ち寄りつまみも豊富、夕飯はジャガイモ、人参、玉ねぎ、豚肉、SBゴルデンカレーを使った渡辺特性カレーとした。

20時就寝、翌日は4時起床、草履塚、本山方面は濃いガスに覆われていた。朝食後、5時出発としたが山頂方向は濃いガスに覆われ何も見ることが出来ない。今回の参加者全員は山頂に立っていることから無理に行かなくともと思いきや結果、花々を見ながらゆつくりと下山することとした。疣岩山からは上ノ越経由で下山としたがしっかりとった登山道であった。特に上ノ越からはしっかりとったぶな林の歩きやすい登山道であった。

まだ、暑さに慣れていない身体でしたが皆元気に登山口に12時半に到着することが出来ました。



ミヤマキンバイ



ヒメサユリ



ハクサンチドリ

便利な「みまもり機能」を利用してみよう
 万一遭難しても発見が容易に!

諏訪 恵一

今年は県内外で山岳事故・遭難の報道に接する機会が多いように感じる。充分気を付けていても事故・遭難を完全に避けることはできないと思う。万一事故・遭難にあった際に早く発見に至る方策を考えてみたい。

まず、登山届(登山計画書)を事前に作成し、所属山岳会や警察署に提出し、家族などにも渡して山に出かけること。これで、万一事故・遭難にあっても、捜索時に凡そが見当を付けられるが、短時間で発見に結び付けることは難しいと思う。そんな時、発見を早めるには、遭難者の位置情報が捜索者に的確に伝わるのが一番である。

最近登山に際して地図アプリの利用が増えているが、各種ある中で利用者が多いと思われるヤママップ(YAMAP)の「みまもり機能」が、遭難者の位置情報を以下のURLから確認できます。
<https://yama.com/share/location/>
 このメールは、あなたの活動中に特定のタイミングで送信されます。最新の位置情報は更新されていますので、定期的に上記のURLにアクセスしてみてください。
 誰かが活動終了すると、通知が届きます。誰かが遭難した場合は、ご注意ください。



YAMAPからのみまもりメール

「まもり機能」に注目してみた。非常に便利
なこの機能だが、ヤマツプのホームページ
によると利用者の30%前後しか使っていな
いとのこと。

この機能の概要だが、アプリの「みまも
り機能」設定を有効にし、自分の位置情報
を知らせたい相手のメールアドレスを登録
すると、アプリを起動した際に相手に登山
を開始したことを通知するメールが届き、
随時自分の居場所を伝えることができる
というもの。

通知を受け取った人がメールにあるリン
クをクリックするとその時点で自分のいる
位置を地形図上で確認してもらうことがで
きる。メールの受取先には山岳会留守本部
や家族を指定すればいいだろう。また、受
信したメールのリンク先の情報は随時更新
されているので、常に現在位置の確認がで
きる。この機能は無料で利用でき、有料会
員になるとライン(LINE)に通知する
こともできる。

この機能は携帯の電波が届かないところ
にいても、行動中に他のヤマツプ利用者
とすれ違えば、その利用者が電波の届くところ
に行つたときに、その利用者としてすれ違つ
た時までの自分の位置情報を伝えることが
でき、下山してアプリを終了させれば「み
まもり機能」で登録した相手にメールが届
き、すべての行動ルートの確認もできる。
メールの宛先に家族を登録しておけば帰
りを待つ家族の安心にもつながるだろう。

既にヤマツプを利用しているようであ
れば、山行の記録を取るだけでなく、「みま
もり機能」を一度試してみてもいいだろう
か。

まだ利用していなければ、この機会に利

用の検討をお勧めする。利用が増えるこ
とで利用者同士がすれ違う機会が増え、よ
り安心が増すことだろう。

古道調査

米山登拝道を歩く

後藤 正弘

2023年5月13日(土) 晴れ

米山薬師は、古代より権力者に保護され
るとともに利用されてきた歴史がある。江
戸時代に入り、農業神として多くの村々が
米山講という諸集団を組織して、毎年米山
薬師に代参者を送り、明治期に最盛期を迎
え昭和20年代まで続いた。

頸城地方からの登山道は柿崎口(下牧・
水野)であるが、明治時代の絵図による
と麓の米山寺からすでに二手に分かれてい
る。

一つは米山寺川左岸の尾根沿いに登り、



緩やかな古道

水野を経由し佛川を渡って水野より登る水
野コース。もう一つは密蔵院の裏から尾根
伝いに下牧に抜け、米山薬師御仮堂の脇か
ら登るルート。今回はこの古道調査を実施
した。

密蔵院前に車を止め立派な門構えから石
仏を見ながら石段を登る。一旦平となりさ
らに石段を登ると庫裏と護摩堂が建てられ
ている。庫裏で管理人と会話をし、上越
市文化財指定の護摩堂を見学する。美しく
繊細な外壁装飾や欄間の彫り物など芸術的
価値のある素晴らしい建造物だ。

裏手から穏やかな起伏の雑木林を、ヤマ
ボウシなどの花などを見ながら落ち葉を踏
みしめて歩く。下牧手前で広々とした水田
地帯に出て、ほどなく左の古道に入り「下
牧ベース993」に到着。ここからは、現
在も歩かれている登山道となる。

米山薬師御仮堂の脇をとり、駒ヶ岳、
三十三観音、泰澄禅師の墓、女しらばと古
くから歩かれた参拝の道をゆつくりと歩
く。山頂では薬師堂にお参りして、現三角
点を確認してランチタイム。多くの人々が
登拝した道を往時に思いを馳せ、いつもと
は違う気持ちで往路を戻った。

古道調査

沼越峠(鉾峠) 報告

多田 政雄

沼越峠は鉾峠とも言われて阿賀町柴倉と
福島県金山町中川上田ダムの間である。歴
史も古く金山町史に依ると会津地方では大
山越えとよび、寛永19年坂下、大栗田、沼
沢村の農民があまりに厳しい収納のために
越後に逃げる時通り、天正6年の野沢城主



沼越峠にて

大槻太郎左衛門が蘆名氏に敗れてこの道で
越後に逃げたとされている。金山谷の人
は15歳にもなれば地元の物産を背負い、帰
りは塩や、昆布、魚類を背負って、日帰りで
戻って来る。この仕事ができ一人前の
男として認められた。

信仰の道でもあった、大山越、柴倉集落、
大倉峠、大山祇神社の順路で山の神参拝と
湯殿山参りも行われたと云う。

津川麒麟山公園に前泊し、翌日阿賀町役
場に集合して柴倉に向い、林道のゲート前
に駐車して7時40分に出発する。

蒸し暑い中を栃倉山の裾野の林道を1時
間程歩くと林道最高地点に着く。御前ヶ遊
窟や井戸小屋山、そして柴倉集落方面の見
晴らしが素晴らしい。少し歩くと林道終点
になる。刈払いされた山道を下ると電力保
全小屋があるが一般には解放されていない
ので注意。緑の眩しいブナ林の中を下る。
1時間弱で柴倉沢の渡渉点に着く。思った

より水量も少なく全員難く渡ることができこれからの急登に備え休憩する。3000m程登り返し631m地点に着く。尾根の稜線から右側に西沢を隔てて菅倉山人岩の大岩壁が見える。地形図にも名前があり物凄く大きな迫力満点の岩場である。

日が照り付け暑くなるが831m地点の鉄塔から振り返ると対岸の下ってきた道や小屋がハッキリ見える。そこから暫らく行くと県境稜線に出る。左側に向かい60m程下り747mの鞍部に着くとそこが地形図に書かれている沼越峠である。何の標識や目印もなく、普通に通り過ぎてしまう様な場所である。

全員で記念写真を撮り50m程登り返すと県境稜線と上田ダム方面の分岐点になり、12時に着く。見晴らしも良くて飯豊連峰や只見側が良く見えそこには古い山の神が祭られている。前には小さな広場があり旅人が疲れを癒すには最適な場所と思われる此処が沼越峠の様な気がするが？日差しの暑い中で昼食を食べて12時30分稜線上に在る国土山に向かう。

最初は藪があるが少し行くと杉の巨木も有り踏み跡もハッキリしてくる。30分ほどで858mの三等三点山頂に着く。全くの藪の中で視界は望めず枝をかき分け写真を撮り往路を分岐点迄戻る。

13時30分上田ダム側に下山を開始する。直ぐに電力保全小屋があるが此処も中には入れない。両側はブナ林を伐採した草原で伸びた蕨が出ており良さそうなものを晩酌用として手折りながら下る。秋には一面スキが逆光に輝き只見川から湧き上がる雲海が素晴らしい所だ。

上田ダムが美しく望まれ23番鉄塔から急

な下りとなり注意しながら尾根を下りきり北の湖沢を吊り橋で渡ると直ぐにダムサイトの駐車場に15時に着く。登って下って登って下って結構キツイ峠でした。昔の人は強かった。参加された皆さん大変ご苦労様でした。

同好会からのお知らせ

●スノートレッキング同好会

松井 潤次

昨年度は、天候の影響を受けて、行事自体の中止や行事途中での中止が続きました。今年度は是非とも好天に恵まれ、スノートレッキングを楽しめればと思います。今後の予定は次の通りですが、詳しい計画はホームページ等でご案内します。

- ①12月24日(日)「米山」霧水のブナ林と海が見える刈羽の名峰
- ②1月8日(月)「弥彦山」越後を代表する霊山の冬景色(裏参道)
- ③2月18日(日)「三ノ峠山」手軽に登れる里山

●フォトスケッチ同好会

遠藤 俊一

今年度は、令和6年2月に一泊の予定で三ツ峠山から富士山の絶景を写真に収めたいと計画しています。詳しい計画はホームページ等でご案内します。

また、手軽な費用になるよう、大人の休日クラブの利用を予定しています。

●アルパインスキー同好会

廣井 博行

活動第1回目は、12月17日に妙高(二泊)で①同好会員顔合わせ②入山に際してのレクチャー③雪のメカニズム④山スキーのア

イテムについて⑤セルフレスキュー等の内容で活動を開始したいと思っており、講師は後藤正弘支部長と玉木大二朗事務局長の予定です。これらの内容を踏まえて次の予定を計画しています。詳しい計画はホームページ等でご案内します。

- ①1月27日(土) 東谷山
- ②2月11日(日) 菱ヶ岳
- ③3月3日(日) 三田原山

事務局からのお知らせ

●支部会員動向(2023年5月〜8月)

- 1 新入会友
 - 岡田 陽子 (13463)
 - 山中 孝郎 (16841)
- 2 退会会員
 - 本間 一人 (8248)
 - 佐野 弘 (8274)
 - 小林 収 (5168)
- 3 物故会員
 - 今成 幸夫 (4495)
- 4 支部会員数 (2023年8月20日現在)
 - 支部会員(準会員含む) 155名
 - 支部会友 9名

●支部会員総数(2023年8月末現在)

- 支部会員(準会員含む) 161名
- 支部会友 7名

●支部会費の納入について

今年度の支部会費については多くの会員の皆様から納入していただいておりますが、8月現在、未納の方が見受けられます。未納の方は至急支部の口座に振り込んでいただきますようお願いいたします。なお、払込取扱票で振り込まれる方は必ず通信欄に住所、氏名を記載してください。

越後支部口座
金融機関…ゆうちょ銀行
加入者名…公益社団法人 日本山岳会越後支部
口座記号…0056003
口座番号…103716
年会費…2,000円(会友は3,000円)

●支部晩餐会の開催予定について

近年コロナ禍により支部晩餐会を中止しておりましたが、本年は12月9日(土)に新潟市中央区弁天2-1-6「新潟東映ホテル」において開催を予定しておりますので皆様のご参加をお願いします。

正式な開催案内と出欠連絡方法につきましては、別途ご案内いたします。

編集後記

この支部報がお手元に届く頃には暑さも収まっていることと思います。記録更新すくめの猛暑と少雨には皆様閉口されたのではないのでしょうか。やはり暑いときは高山で可憐な花を愛で、雪渓を渡る涼風とともに雪渓で冷やしたビールを飲みたいものです。と涼しくなった頃にこの文章を読まれても違和感を感じられたかと思えます。

越後支部でもホームページでリアルタイムの情報提供が定着し、支部報が届いても知っている内容ばかりかも知れません。また、インターネットはやらないので、ホームページは見えないよと仰る方もおられることでしょう。時代に即した広報委員会はどうあるべきかを考えながら、少しでも会員諸兄のお役に立つ活動を模索しております。改善のご提案をお寄せいただければ可能限り実現したいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。(諏訪恵一)